講演抄録

こどもの上肢－様々な疾患の診断と治療－

手外科を専門としない小児整形外科医が診療にたずさわる上肢疾患を挙げてみると、感染症（骨髄炎、化膿性関節炎、リンパ節炎）、腫瘍（外骨腫、多発性外骨腫、メタコンドロマトーシス、内軟骨腫、Ollier病、単発性骨嚢胞、血管腫、腱鞘巨細胞腫、Langerhans細胞組織球症、白血病、神経芽細胞腫、Gorham病など）、膠原病（若年性特発性関節炎、混合性結合組織病、皮膚筋炎など）の他に、①手部：強剛母指、弾発指、先天性握り母指症、屈指症（先天性多発性関節拘縮症、Beals症候群）、Charcot-Marie-Tooth病、指節骨癒合症、Microgeodic病、中手骨短縮症、中節骨短縮症、脊髄空洞症、指噛み・指しゃぶりによる指の腫大、Video Game Induced Knuckle Pad、開花性反応性骨膜炎、Pachydermodactyly、骨系統疾患（Hajdu-Cheney症候群、濃化異骨症、骨幹端異形成症、軟骨無形成症など）、Kirner変形、②肘・前腕：肘内障、橈骨頭脱臼（先天性、外傷後、習慣性）、反復性腕尺関節脱臼、Pannar病、変形治癒骨折（内反肘など）、Fishtail変形、上腕骨外側顆骨折後偽関節、先天性肘関節強直(Apert症候群、Antley-Bixler症候群など）、先天性橈尺骨癒合症、離断性骨軟骨炎、肘関節内遊離体、弾発肘、滑膜ひだ障害、生理的尺骨神経脱臼、③肩疾患：Sprengel変形、開胸術後肩甲胸郭関節拘縮、三角筋拘縮症、外反肩、内反肩、分娩麻痺肩、顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー、進行性骨化性線維異形成症、先天性僧帽筋欠損症、Poland症候群、屈曲肢異形成症、先天性鎖骨欠損症、先天性鎖骨偽関節症、先天性鎖骨肩甲骨癒合症、上腕骨頭壊死、リトルリーグ肩、肩関節不安定症（習慣性肩関節脱臼、随意性肩関節脱臼）、鎖骨遠位端骨溶解症、小胸筋拘縮症、鎖骨頭蓋異形成症、肩甲胸郭関節滑液包炎などが挙げられます。本講演では、このような疾患の中から時間の許す範囲で、診断と治療について解説したいと思います。